

色覚検査-仮性同色表(色覚検査表)

便宜上、異常という言葉を使用しています。呼称も変更されています。

目的 先天・後天色覚異常のスクリーニング

準備物 色覚検査表・記録用紙・筆記用具・メジャー・(必要ならば)昼光色蛍光灯

被検者の問診・眼科一般検査を行う

親類縁者に色覚異常者がいるか、眼疾患があるかによるふるい分け。問診の取り方には注意を払うこと。

検査時の配慮 北原健二:日本視能訓練士協会誌第32巻P4

- ①一人ずつ個室で検査を行うなど、他人に検査内容や結果がわからないように配慮する。
②被検者は数字などの視標がわからないと不安に感じることもある為、前もって数字の書かれていない表もあること、読めなくても心配ないことを説明する。
③答えに戸惑っている場合にも、急がせたり、催促することなく次表に進む。
④「え？！これが読めないの」など不用意な言動は厳に慎み、また「もう一度良く見て」3ではなく5よなど、確認や訂正などしない。

注意! 判定上の注意点

- ①色覚正常者でも誤答することがある
②色覚異常者でも全表正答ることがある
③程度判定は避ける
④色弱・色盲・全色盲の診断は行ってはならない
⑤第1と第2異常が逆に判定されることがある

午前9時から午後3時の間の北向きの窓から入る自然光又は昼光色蛍光灯(500lux程度)の下に座位させる

EDL-65 蛍光灯 (東芝)が良い。白熱灯は禁。

着色レンズは外し必要ならば矯正をして視線と直角にし、表面が光らないように注意して石原色覚検査表を行なう

検査距離 75cm 提示時間は 3 秒にて、記録用紙に被検者が読めた数字を記入し、通常、読めない数字には×を読みづらい数字には*などを記入し、終了したら表の正解・第1・第2色覚異常の読み方の欄の被検者の読んだ通りの数字全てに○をつけ合計する

38表は多過ぎて扱いきれなく、コンサイズ版と学校用は検出力が劣る。

判定基準)

Table with columns for International Version 38, International Version 24, School Use, and Child Use, and rows for Normal, Abnormal, and Suspicious Abnormal results.

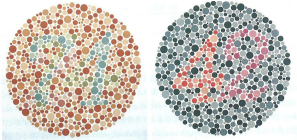
結果・記載例) 所定の記録用紙に記入すること

*国際版 38 表の場合(26 からは省略)

Table with columns for tables 1-25 and total score, and rows for Correct Answer, First Abnormal, Second Abnormal, and Readings.

これは片方のみしか読めていないので除外。 1, 2 型判定表。両方読めた場合読みやすい数字に○をつける。

検出に適合するのでもスクリーニングに汚さないように触れさせないこと。曲線と文字が読めない場合は筆でなぞらせる。



デモンストレーション用 これが判らない場合、視力不良(0.05未満)か視野異常、数字が読めないか詐盲である。矯正して再検査をする。

石原色覚検査表(国際版) 色覚異常(1型色覚の疑い)

異常の型と程度の判定は参考程度。

その他の仮性同色表を行う

後天性となる原因があるか?

この場合、特に片眼ずつ検査すること。

SPP-Ⅲは検診用だよ。

標準色覚検査表第2部(後天異常用 SPP-Ⅱ) パネル D-15 検査などへ

検査表の説明書をよく読んでおくこと!

色盲色弱度検査表(大熊表)を行なう

石原表で色覚異常と判定された者に対して、検査距離 75cm 提示時間 3 秒にて行う

新色覚異常検査表(新大熊表)を行なう

検査距離 75cm 提示時間 5 秒にて行う(石原表の1から4類に準じた8表の検出表があり、検出が可能である)

東京医大式色覚検査表(TMC)を行なう

検査距離 45cm 提示時間検出・程度 2 秒、分類表は制限なしで行う

標準色覚検査表(SPP-1)を行なう

検査距離 75cm 提示時間 3 秒にて読んだ数字又ははっきり読める数字に○をつけ、各欄の○の数を合計する

記載・記載例)

Table with columns 1-6 and rows for Correct Answer, Moderate Red Weakness, Red Blindness, etc.

デモンストレーション用

Table for New Bear Test with columns 1-8 and rows for Correct Answer, Abnormalities, and Readings.

Table for TMC Test with columns for tables I and II, and rows for Correct Answer, Abnormalities, and Readings.

デモンストレーションの意味でⅡから開始すると良い。全正解なら分類と程度は必要なし。

Table for Standard Bear Test with columns for tables 5-14 and rows for Correct Answer and Readings.

判定基準)

微度 : 石原表が異常で大熊表で全表正読
強度・中等度・弱度に分類: 上記以外

正常 : 検出表 8 表が不認又は 2 表~7 表までの 1 枚が不認
正常ではない : 検出表 2 表~5 表までの 1 枚と 8 表を異認 程度は上記表に記載

正常 : 検出表 I・Ⅱとも読める
弱度 : 2 表以上両方読める
中度 : 2 表以上片方のみ読める
強度 : 2 表以上両方読めない

程度が色々な場合は程度の多い方で、3 表バラバラは中度。病型の診断は不可。

- ①表番号1は詐盲、2, 3は全色盲、4は後天性である。
②被検者が読んだ数字に○印をつける
③2つの数字が読める場合ははっきり読める方に○印をつける
④各欄の○印の数を合計し、正答が8以上ならば正常とする
⑤第1・第2異常の欄の○印の多い方に分類する

正常 : 正答が8以上
軽度 : 2 字とも読める(微度 : 特に 5 表全部正読)
強度 : 2 字とも読めない

判定はアノマロスコプによることが重要で用いた検査表の種類と「全表正読」のように客観的結果を記載する方が良い。

複数の色盲検査表により総合的に判定し、正常でないなら目的に応じパネル D-15・アノマロスコプへ

自分の結果も添付しておく!

これはあくまでもスクリーニングであり型と程度は参考程度だよ! それと判定は医師がすること。